

チャレンジコミュニティ

Challenge Community Club

通信



第41号

2019.7 vol.41



芝三丁目のアジサイ



活動報告会



12期生修了式

CONTENTS ■ ごあいさつ

高輪地区総合支所長

野澤 靖弘

CC大学統括コーディネーター

明治学院大学学長特別補佐・名誉教授

河合 克義

CCクラブ代表

及川 廣子

■ 2019年度CCクラブ新体制の紹介

■ 学ぶ喜びと出会いをありがとう!

～12期生から寄せられた声～

■ 2018年度活動報告会

■ 明治学院高等学校

家庭科授業ゲストスピーカー

■ 運営委員会報告

チャレンジコミュニティ・クラブの 皆様のさらなる活躍を期待します!

■高輪地区総合支所長
野澤 靖弘

チャレンジコミュニティ・クラブは、今年で12年目を迎え、約650名の会員の方々に様々な分野でご活躍いただいています。かつては高輪地区総合支所協働推進課長として、現在では、高輪地区総合支所長として、チャレンジコミュニティ大学事業やチャレンジコミュニティ・クラブの活動支援に携わっている者として、皆さんの活動の積み重ねが地域の中に浸透し、地域活性化の力となっていることが、大変うれしく、また誇らしく思います。改めて、皆さんの積極的な活動に心から敬意を表します。ありがとうございます。

港区内では現在、各地域において様々な開発事業等が展開されており、地域の街並みはこれまでにないスピードで変貌を遂げつつあります。高輪地区においても、来年の春に暫定開業する「JR高輪ゲートウェイ駅」を含めた品川駅周辺開発、白金地区の再開発、環状4号線計画などが実現に向けて動いています。区は、地域特性に応じた「まち」の将来像を、区、区民、事業者等が共有し、環境と都市機能とのバランスに配慮した快適でにぎわいのあるまちづくりを推進しています。

また、令和3（2021）年から始まる新しい「港区基本計画・地区版計画書」の策定に向けて、区は現在、チャレンジコミュニティ・クラブの方々にもご参加いただいている区民参画組織のメンバーと議論を重ねているところです。

「令和」という新しい時代が始まり、目まぐるしく移り変わる社会の中でも、地域の貴重な財産であるチャレンジコミュニティ・クラブの皆さんをはじめとした、地域の方々との日頃からの繋がりを大切にしつつ、「港区ならではの地域共生社会」を着実に実現してまいります。引き続き、ご支援、ご協力の程よろしく申し上げます。



CCクラブの新たな挑戦— 地域ネットワークの新たなあり方

■CC大学統括コーディネーター・明治学院大学
学長特別補佐・名誉教授 河合 克義

2008年以降、我が国は人口減少の傾向が続いています。国立社会保障・人口問題研究所の人口推計によれば、日本の総人口は2053年には1億人を割って9,924万人となり、2065年には8,808万人になると推計されています。都市部も地方も地域の状態が変わってきています。日本全体では、地方での人口減そして主要都市への人口の集中が進んでいます。

そうした傾向の中で地域ネットワークの状況を見ると、地方の方が都市部よりも地域のつながりがあるのですが、それでも都市と農村を超えて希薄化が進行しています。

私に関わった2011年の山形県全市町村と港区で行ったひとり暮らし高齢者調査で、近所づきあいの程度を比較すると、「つきあいがあまりない、まったくない」人は山形では15.4%と1割半でしたが、港区では、39.4%、約4割となっていました。都市と地方では地域ネットワークに大きな違いがあるのです。

全国的には特に都市部で地域的なつながりがさらに希薄化してきている中で、CCクラブは、CC大学12期生を迎えて約650人の組織となりました。この港区内で、約650人も新たなつながりが出来ているのです。さらに2018年のCCクラブ会員の活動実態調査結果によれば、いま239グループが地域活動を展開しています。これらの地域活動は、CCクラブの組織内だけでなく、外との関係性を持っている活動も多くあります。

CCクラブは都市部での地域ネットワークの新たなあり方を示すものと言えるでしょう。更なる挑戦に期待したいと思います。



誰もが楽しく活動できる CCクラブを目指して

■CCクラブ代表 及川 廣子 (6期)

令和という新しい年号になりました。新年度は12期生を迎え、会員数も約650名になりました。運営委員として2年、副代表として2年を経験させていただき、新年度より代表を務めることになりました。今まで以上に責任が重くなったことを感じるこの頃です。



6期生として入学した時の、CCクラブの状況から現在までを振り返った時、明らかに進歩していると感じました。それはCCクラブの諸先輩の努力が礎となっていることや、CCクラブ会員一人ひとりが多方面で生き生きと活動していることだと思います。

さらに、港区様、明治学院大学様、明治学院サービス様のご支援があるからです。CCクラブ本部として何をすべきか考えました。

代表として次のようなことを考えています。

- 1、地域CCクラブと運営部門の結びつきをより強くすること。
- 2、CCクラブ内のコミュニケーションを良くし、信頼関係を強くすることに注力したいと考えています。

12年というCCクラブの実績を大切に、新しいことにトライし、更なる発展を目指し、CCクラブの継続のために三役はじめ役員、運営委員一同、努力したいと思えます。

地域CCクラブをより理解するために活動の場に参加させていただくことも考えております。地域CCの悩みや、成功例を共有させて頂きたいと考えています。

CCクラブはチャレンジコミュニティ大学修生のクラブです。誰もが楽しく活動できるCCクラブにしたいと考えています。

チャレンジコミュニティ通信は、 地域活動推進の情報を提供します

港区は、2007年4月に地域活動のリーダーを養成することを目的として、明治学院大学との連携により、チャレンジコミュニティ大学を開設しました。この大学は港区在住の60歳を超えた方を対象に各々がこれまで培ってきた知識・経験を地域に生かし、生きがいのある豊かな人生を創造し、また学習を通じて個々の能力を再開発することを目指して創設されました。

2008年3月、第1期生の修了を機に自主的な運営組織として、チャレンジコミュニティ・クラブ（略称CCクラブ）が創設されました。この大学で学んだ知識を活用し、地域課題の解決に向け、会員が地域活動を推進することを目的としています。このクラブは地域活動のリーダーを育て、港区のまちづくりや地域ネットワークの構築を進め、併せて各人の資質の向上をはかっていきます。

この目的に沿って、主にクラブ会員を対象に地域活動推進の情報提供や活動状況を紹介するため、チャレンジコミュニティ通信を発行しています。

年間を通しての主な活動は

- ・総会、ホームカミングデイ
- ・夏子ども会サイエンス講座
- ・みなと区民まつり
- ・港区地域福祉フォーラム
- ・活動報告会

などがあります。

また、地域での活動としては

- ・芝CCクラブ
- ・高輪地区CCクラブ
- ・明虹会
- ・3Aクラブ

など多くの活動機会ができています。

これからの皆さんの活動の指針となることでしょう。

ご自分でできることを探してアタックしてみてください。

また会員相互の情報としては各団体等での会員の活躍状況や、クラブ企画の講演会・講習会、施設見学会の開催案内等を適宜紹介していきます。

ホームページも併せてご覧ください。

2019年度 CCクラブ新体制の紹介

副代表 太田 則義（7期）

CC大学7期生として修了後、7期2グループの運営委員や会報部会を中心に運営部門に関係する一方、高輪地区CCクラブの一員として活動してきました。この間に、多くの講座などを受講する機会を得て、地域の活動がある程度知ることができました。昨年度、地域連携部会が行った「2018年度活動実態調査」にも加えさせていただき、CCクラブ会員の皆様の様子も知ることが出来ました。

副代表としての一番の役割は会員とのコミュニケーションを大切にし、会員の声をCCクラブ全体の活動に反映させることだと思っています。会員が活動しやすい仕組み作りもしていきたいと思っています。CCクラブは12年を迎え多くの課題を抱えていることも事実です。従来のあり方、考え方を大切にしつつ、“これからをどうするか”も考えて行きたいと思っています。



副代表 石川 啓子（8期）

今年度からCCクラブ運営部門の中心に関わることになりました。身の引き締まる思いです。地域でのボランティア活動や港区が推進している「参画と協働」の場においてもCC大学の修了者を多く見かけます。共に学んだ仲間が「自分らしく輝いたり、楽しそうだったりする」と嬉しくなります。

昨年の運営委員会では、皆さまの豊かな経験や知識を共有し合える場があること、協働し笑い合い互いが高め合える場があることを知り、それらを「つなぐ」クラブにしたいと話し合われました。

私は「つなぐ」ことのできる運営委員会にしたいと願っています。CCクラブの皆さま一人ひとりに、この広がる楽しさを世代や国境を超えた地域の中に生かせるよう応援します。多くの皆さまが運営活動に参画し協働して下さることに期待しています。



企画部会

野村 知義（8期）

会員の絆をさらに深め楽しく集える場づくり

2019年度企画部会は経験豊富な部会員で活動を進めます。会員数約650名の規模の大きい人生の達人が集うクラブとなりました。CC大学の学びの中で生まれた知縁コミュニティを大切にし、会員同士のネットワーク維持、情報交換し易い環境、楽しく集える交流の場、学びの場、さらに絆を深め一人ひとりの毎日の生活や活動が充実できる機会をつくりたいと思います。

港区、福祉団体そして地域イベント等の連携・協働、多世代間での活動を進め、地域の課題解決を図るための諸活動を進めたいと思います。部会活動については部会員が楽しみ、学べ、友好を深め達成感が得られることが大切だと思います。

年間活動としては、宿泊研修、スポーツ、ボードゲーム大会、講演会、勉強会、サイエンス講座等計画しています。



地域連携部会

森下 和彦（11期）

CCクラブと地域をつなぐ活動

昨年の地域連携部会では、会員の皆様が取り組んでいる地域活動や福祉活動の実態を把握し、さらに今後のCCクラブの活動を一層充実させるために、「活動実態調査」としてアンケート調査を実施しました。今年は、この「活動実態調査」の



まとめとして正規版の報告を行うとともに、調査から得られた様々な課題の中で、地域連携部会が受け持つべき地域に係わる課題を取り上げて活動を進めてまいります。具体的には、「ボランティア活動をしたいCCクラブ会員や地域の方々と、地域で活躍されている様々なボランティアグループを繋げる仕組み作り」を一番のテーマとして取り組んでまいります。また、地域で活躍されている個人もしくはグループを特集するクローズアップCCの発行も継続して進めてまいります。

ホームページ部会 石賀 幹春（9期）

HP部会の活動はCCクラブ会員相互のコミュニケーション手段として、簡易に且つ有効に利用して頂けるようにお手伝いすることです。スマホで簡単に閲覧できますから、週に1回はチョット覗いて見てください。色々なイベントの案内や興味ある情報が掲載されています。またHPへ投稿するための講習会を開催しますのでぜひ参加ください。新しくSNSやスマホの利用方法の講習会も予定しています。ご期待ください。

定例会は第3水曜日16時から17時30分まで、CCクラブ作業室にて開催しています。投稿に関しての質問・疑問・要望や実際に投稿の練習等も部会で対応しますので、遠慮なく自由に飛び入り参加ください。大歓迎です！



会報部会 古橋 義弘（1期）

今年の会報部会は9人の参加で始まりました。私はこれまでアナログ型の印刷関係の仕事をしてきました。これを生かしデジタル型の印刷に移行していきます。外見上は一緒でもいくらかアナログ的な処理があるかもしれません。そんなところにも目を向けていただけたらと思います。

形式的には例年を参考に進めていきますが、内

容的には部会員の皆さんと一緒に少しずつでも変えていけたらと思います。さらに運営委員と会員の皆さんとの橋渡しができますよう双方向性を大事にしていきます。

また、皆さんからの自主的な記事の提供や参加協力をお願いして楽しい部会にしていきたいと思っています。



総務部会 國久 昇（11期）

毎月（除8月）議事録を会員に送信しています。また、その元となる運営委員会の資料作成、名簿の管理、総会や活動報告会などの大きな催事では準備・進行などに携わっています。港区行政、各地区CCの活動のようすが集約されて来るので、情報を得るのには「お得」感のある部署かな、と思います。

お手元に届くのはpdf形式の文書ですが、編集段階でのワード作業、名簿管理でのエクセル作業など、パソコンのスキルが自然と上がるのも、結果としてはお得の部類に入るのかな？

令和になって12期生を新たに迎え、現在7人。下の写真は議事録送信の際に月1回集まる部会のようなのですが、それ以外はメールの遣り取りで作業を進めます。

PCのスキルアップを目指す方、一緒に活動しませんか。



学ぶ喜びと出会いをありがとう！

～12期生から寄せられた声～

S・ウルマンの「青春」の詩が、CC大学で学ぶ同期生の背中を見て浮かびました。「青春とは人生のある時期を言うのではなく心の様相を言うのだ」好奇心がある限り心は老いないという趣旨です。

60歳を過ぎて新たな友ができ貴重な知識を得られ、明治学院大学と港区の運営スタッフの皆さんに感謝します。仕事との両立は大変でしたが、人生百年時代、自分のできることを精一杯社会に生かしていきたいと思います。 畑 順子

河合雅司「未来の年表」人口減少カレンダー2022年団塊世代が75歳に突入し「一人暮らし社会」が本格化、2030年団塊世代の高齢化で東京郊外にもゴーストタウン広がる、2045年東京都民の3人に1人が高齢化など、衝撃を受けた。

大学では医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体として提供される『地域包括ケアシステム』構築が重要だと学んだ。まずは、12期生と繋がり活動していきたい。 熊野御堂 昌子



スポーツ実習

団塊世代の一員で高齢化社会を生きる私にとって、この講座で再認識したのは自助、共助、公助という言葉です。これからは健康管理、地域貢献をしながら健康寿命を延ばすよう努めていこうと思っています。大変有意義な一年でございました。

M.S.

先生方の推薦本を図書館で借りて読むという日々を過ごし、同じような体験を以前にもしたという不思議な感覚に陥りました。よく考えたら、それは大学時代でした。正に、学び直しの機会を頂きました。

我が国で唯一無二のシステム、CC大学の今後益々の発展を祈っております。 高橋 まり子



音楽鑑賞会

福祉関連の授業や実情に興味を持ちました。高福祉高負担か低福祉低負担か、などについて考えてみるよい機会にもなりました。個人的には高福祉国家は大きな政府への道に繋がるのではないかと危惧しています。生活保護政策に関連して、フリードマンの主張する負の所得税（NIT）や北欧で実験されているユニバーサル・ベーシック・インカム（UBI）についてもっと勉強してみたいと思いました。 H.Y.

タワーマンション内でのサロンや港区全域を対象にしたサロン、また要支援1,2あるいは同等のレベルの方を対象にした“みんなの倶楽部”の運営に携わってきました。これ等の活動をしながら、CC大学で学んだことで、考え方や高齢者の置かれた状況など、きちんと裏付けを持つことができ、さらに人脈ができたことは自信を持って活動を進めるために大変資するものがあつたと感謝しています。 平田 渥美

怒濤の一年間でしたが何とか卒業できてホッと
しています。盛りだくさんの授業で改めて自分の
無知に気付かされました！ 年齢と共に体力は落
ちますが、知識欲と好奇心は衰えないよう頑張っ
ていこうと思います。ありがとうございました。

A.Y.

私にとりまして、この一年は大変に貴重な経験
をさせていただいた一年でありました。

授業の中では、グループ以外の方々と交流を重
ね、時には展覧会のご招待券を頂き鑑賞にも行き
ました。また、多くの課外授業を通して、沢山の
ことを学びました。大変有意義な一年を過ごすこ
とができました。人と人とのつながりの大切さを
感じ感謝いたします。

本藤 英敏



議会棟見学

チャレンジコミュニティ大学では一年間学ばせて
頂いたことに深く感謝いたします。59講義と4
回の見学、実習や鑑賞で得られた基礎知識から、
自分の現状に合う活動を模索していきます。当面
はCCクラブの部会で手伝いをいたします。

J.O.

あっという間に一年が過ぎ、期待以上に充実し
た講義の数々に感謝の気持ちで一杯です。私自身、
子供、孫と港区の私立学校に通い、住いながらも
さほど意識していなかった“港区”にも、強く愛
着の念を抱くようにもなりました。

今後は新たに出来たお仲間と共に、CCの先輩
のアドバイスを頂きながら、何がしかの貢献をし
て参りたいと強く思っております。

山口 真樹子

CC大学に参加なさった方は、皆様明るく、前
向きで行動力（パワー）をお持ちです。これから
の人生にこのお仲間に出会えたことをうれしく思
います。大学では、これからの目標、自分でしっ
かり決めなくてはならないことを示していただき
ました。

R.A.

お友達から勧められ、何の知識もなく応募し、
運良く合格しました。幅広い分野の勉強が出来た
ことに感謝し、経験豊富な方々との出会いを大切
に、これからの生活や地域貢献に役立てたいと
思っております。楽しい一年をありがとうございました。

M.T.

一年間の授業は私世代にピンポイントにあわせ
て、なんとなく知っていることを深掘りした講義
全般でした。年齢を経た分、聞いたことがあるで
終わっていた内容が、専門の方々の切り口を受講
しその深い感動に反比例し、頭脳にキープするの
が困難なのが現実でした。少年老い易く学成り難
し、この一行を噛み締めました。でも体験しない
で終わるよりも、体験し色濃い一年を過ごせて幸
せでした。

内田 佐代子

長いようで終わってしまえば早かった！と思
える一年間でした。この学びを残る人生にどう活
かすか？ まず、この大切なつながりをもとに、
仲間と情報交換しながら地域活動に参加してい
くことです。そのためには健康が第一で、体力作り
の運動をしながらきちんと食事を取り、向学心を
刺激する文化・芸術活動を続けていきたいと思
います。

清田 恵里子



施設見学

人生って、不思議！ 65年、いろいろありましたが、アツという間だった様な？ホッと一息・・・と思いきや、これからもけっこう長いのだ！ と実感する一年でした。

めんどくさがり屋な私の背中を押してくれたのは、明学CC!! 感謝です。平成最後の年、異常気象の中、12期は、研修などの集合日には何故か晴天に恵まれ、ラッキー♪

私のヤンチャな人生+（プラス）ちょっぴり？見識を深めながら未知の令和へまた一歩ずつ進んで行こうと思います。 **岩出 好枝**



自然探索①

これからの生きがいを考えるきっかけになればとの思いから、CCカレッジに参加させて頂きました。一年間多岐にわたる講義を受講し、これまで接する機会が少なかった地域社会や社会福祉のことを学び、身近に感じるようになりました。既に活発に地域活動をなさっている方や積極的に取り組もうとされる方々との出会いは貴重な宝物です。今後は皆様と共に活動して参りたいと思います。 **K.F.**

一年間がとても速く感じました。いろいろな経験のある人々との出会いと人の輪の広がりから、学ぶことが多くありました。できればもう一年続けられたら、別の活動にもつながり地域活動に活かせるのではないのでしょうか。一年間、水・土曜日がたのしく学べ、人との出会いに感謝です。

徳田 彌寿子

年相応の物忘れがあり不安な気持ちで入学しました。充実した講義内容を受け、また同期生との出会い、楽しい食事会があり無事終了できましたことを皆さまに感謝しております。

「貧富の格差」「無縁社会」「ひとり暮らし」なども記憶に残った授業でした。

実際に起こりうることに無関心な生活をしている現在、人とのつながりで自分が今できることは何か・・・を真剣に考えたいと思っています。

S.K.

定年退職の機に何かを求めて区報で目にしたCC大学の案内。二十代で聴いて感動したブルックナーの音楽講座に強く惹かれ応募した。授業を受け始めると高齢者の現状や様々な年代の社会福祉の状況と問題点、今まで見過ごしてきたことを次々とお教授いただいた。未知のことの連続でまだ授業を受けたいが、これからは自分なりのコミュニティで出来ることを実践し学んでいくのだと今思っている。 **河野 洋子**

様々な環境の中で、様々な人生を歩みながら私たちは、港区に住所があることで2018年4月、CCクラブ12期生として明治学院大学白金校舎に集いました。自分だけでは得られない大学の講義、同期との交流、その中でそれぞれ各自の考えを主張、思いやり、尊敬の念を持ち、互いに刺激を受け成長できたと思います。

社会貢献をどのようにやれるか、すぐにリーダーにはなれませんが努力致します。 **M.S.**



自然探索②

チャレンジコミュニティ大学では多分野に亘る有意義な講義を受けることができました。そのおかげで、社会で起きている色々なことに興味を持てるようになり、その問題に積極的に関わっていきたいとの気持ちが強く持てるようになりました。今後は、この気持ちを大切に、CCクラブの諸先輩方のご指導を仰ぎつつ、地域コミュニ

ティをさらに活性化させるために努力していきたいと思います。

新井 哲也



自然探索③

地域活動に無縁であった私がCC大学受講を目指したのは、福祉を中心に多岐にわたる座学に加え、施設訪問、自然探索、芸術鑑賞、施設見学、合宿研修等講義内容に興味を持ったからです。また、区の職員の方から行政の実態を知ることができたこと、合宿研修での深夜に及ぶグループ討議で社会福祉の必要性や多くの課題を見出せたことは重要でした。CC大学の一年間は学生に戻り、学ぶ楽しさや先生方やグループ員の方とのコミュニケーションの大切さを再認識でき、素晴らしい仲間を得ることもできました。今後は我々の経験・活力・CC大学で得た知識を活かし、行政や大学と連携し、グループ討議で示されたように港区の特殊性を認識して地域の課題を発見し、健康に気を付けながら福祉・地域活動に貢献したいと考えています。最後に提案です。CC大学の講義内容

に比べ現在の受講料は安すぎます。もっと高くすれば受講意欲も高まり、有意義な講義となることでしょう。

内藤 恭三

CC大学で一年間学んだことは、40年ぶりに講義を受けて楽しかった。今は、社会人の再教育・学習が叫ばれている中で自分の様に、退職後に何をすべきか、何が出来るかを捜している人にとって、大きな影響を与えられたと感謝しています。これからは地域の仲間とともに協力し育てながら活躍していきたいと思っています。

柴山 勉

昨年4月から今年の3月まで、本当に充実したキャンパスライフを送ることができ、また、これまでの人生では出会うことのなかった方々と親しくなり、様々な会話を楽しむことができました。これも港区の全面的な支援のもと、明学大の先生方及び事務方の皆さんのご尽力の賜物と感謝しております。わずかな費用負担で、多彩な授業はもとより、美術館や福祉施設の見学、さらには泊りがけの研修と、大変充実したカリキュラムを享受できたと実感しております。CC大学は素晴らしい取り組みであり、“崩壊しているコミュニティ”を修復する一つの手立てとなるのではないかと期待しております。港区の皆さん及び明学大の関係者の皆さんに、改めて御礼を申し上げたいと思います。

長島 英雄

CC大学へ入学、卒業したことにより、人々とのつながり、知識の助けをかり、少し視野が広がったことは大変感謝しております。

S.F.



2018年度 活動報告会

2019年3月16日午後1時より明治学院大学にてチャレンジコミュニティ・クラブ「2018年度活動報告会」が、第1部活動報告会、第2部「三味線演奏と日本舞踊」、第3部交流会の3部構成で開催されました。各部100名から140名の方が参加し、有意義なそして楽しい1日でした。第2部は港区「東京2020応援プログラム」推進助成対象として開催されました。

活動報告会

活動報告会は野村知義企画部会長（8期）の司会で始まりました。冒頭、斎藤正精CCクラブ代表が挨拶を行い、来賓の池田こうじ港区議会議長が挨拶をし、来賓の方の紹介が行われました。

最初は「CCクラブ全体活動」のテーマで斎藤正精代表が運営部門の活動内容、5部会の年間活動、CCクラブが参加した地域活動そして4つの地区CCクラブの活動を報告しました。

続いて、2018年度活動実態調査報告と事例報告がありました。活動実態調査は約600名の会員を対象に行われた会員の实態調査と活動内容調査の集計、分析です。約60%の会員から回答がありました。

報告は明治学院大学学長特別補佐・チャレンジコミュニティ大学統括コーディネーター河合克義名誉教授が基本分析を、吉田由紀子地域連携部会長が活動実態報告を行い、会員の自由回答の意見も披露されました。今回の報告会用として出席者には「東京都港区チャレンジコミュニティ・クラブの実態と活動に関する調査報告書（速報版）」と報告用の冊子が配布されました。



報告会場の3号館3201教室

引き続き行われた事例報告では3Aクラブ川村潔副代表（9期）とミナヨク事業おつかい大作戦プロジェクト森田麻耶代表が「3Aクラブの活動報告～地域への支援、地域からの支援～」のテーマで、企業と一緒に行った活動や保育園での活動を紹介しました。また、10期2グループ活動としてNPO法人みなと外遊びの会理事曾木紀代子さんと11期2グループの鈴木興雄さんが「港区プレーパーク支援活動」のテーマでプレーパークの

活動紹介やサポーター活動を紹介しました。



活動報告会に登壇した皆さん

「三味線演奏と日本舞踊」

第2部は港区「東京2020応援プログラム」推進助成対象事業、チャレンジコミュニティ・クラブ2020応援フォーラム「伝統文化にふれてみよう！ 三味線・日本舞踊」として、三味線と笛の演奏と解説、日本舞踊の鑑賞、体験ワークショップ「長唄を唄おう」、「日本舞踊を踊ろう」が行われました。

最初は一般社団法人中島勝祐記念会の中島久子さんを始めとした皆さんが邦楽演奏と三味線と笛の解説を行いました。

幕開けは「勸進帳、瀧流し」で、三味線・笛の解説と実演が行われ、三味線については岡安祐璃さんが、笛については鳳聲晴代さんが解説をし、「吾妻八景」始め3曲が演奏され、楽器説明も行われました。



会場を魅了した邦楽演奏

続く日本舞踊では花柳丞乙女さんが「松・竹・梅」の踊りを披露しました。そして、体験ワークショップでは長唄「娘道成寺」と日本舞踊「さくらさくら」を会場の皆さんも一緒に唄い、踊りました。解説はすべてコリーン・シュムコーさんが英語でも行い、会場の外国人の方の楽しむ姿が見られ、

日本文化を堪能する時間でした。



会場一杯に扇の花

交流会

邦楽演奏会の終了後、会場をパレットゾーンに移し約100名が参加し交流会が行われました。

入場時に皆さんテーブル番号の札を引き、6月の交流会同様に、期、地域の区別なく着席スタイルで始まりました。

司会は可知隆志企画部副部長（8期）で、最初に野澤靖弘高輪地区総合支所長が挨拶と乾杯を行い会はスタートしました。



野澤靖弘高輪地区総合支所長の挨拶

前半では、清水軍治港区音楽連盟会長とお仲間が登場し、会場の皆さんと一緒に歌を唄いました。また、後半では藤原琴子さん（4期）をはじめとした「ノルディック港区のるのるウォーキング」の皆さんが元気よく登場し、ノルディックウォーキングの紹介をしました。

会員同士そして普段お世話になっている、区関係者や明治学院大学の方々との交流も行われ楽しい時間を過ごしました。



会場を和ませた合唱とノルディックウォーキング



明治学院高等学校家庭科授業

ゲストスピーカー

昨年に続き明治学院高等学校家庭科授業内でのスピーチ協力があり、5月13、14、16日の3日間で延べ21人のCCクラブ会員が参加しました。

「ここまで何をしてきたか（仕事の内容）、どんな風に人生を歩んできたか。現在は何をしています、どのようなことを考え、日々どのような楽しみを持って生活しているか」など、ありのままの姿を語ってほしいということでした。私たちの話を聞く中で、今まで「マイナスのイメージ」を持っていたかもしれない「高齢者」に対する認識が「尊敬すべき大先輩」だったり「自分と同じく大切な存在である」こと、また「親や自分自身の将来像」をいきいきと描けるようになってほしいとの趣旨の依頼でした。



生徒の目が真剣

授業は45分間ですが、各回、先生の紹介から始まり3人がそれぞれ7分から8分間話をし、その後生徒からの質問に答える形で行われました。話した内容に対する質問や高校生活上での質問もあり、私たちも若い人たちに接して有意義なひと時を過ごすことができました。

生徒たちは真剣にメモを取りながら聞き、参加者には後日個人ごとに感想のお手紙をいただきました。CCクラブのホームページでも紹介していますので、ぜひご覧ください。



質問コーナーでも誠意をもって！

■運営委員会報告

2019年度の代表、副代表、運営委員会、各部会のメンバーは以下の通りです。

2019年度 CCクラブ運営委員会・部会メンバー

	代 表	及川 廣子⑥	副 代 表	太田 則義⑦	石川 啓子⑧
運営委員会	運 営 委 員		運 営 委 員		運 営 委 員
1 期	② 梶木 美智子 ③ 古橋 義弘	6 期	③ 白井 レツイ	10 期	① 阿部 令子 ② 瀬能 正実 ③ 丸山 幸秀
2 期	② 野口 美津子	7 期	③ 行本 陽子		11 期
3 期	③ 関矢 加智子	8 期	③ 松木 勇	12 期	
4 期	② 門脇 千鶴子	9 期	① 杉山 弘 ② 岩佐 徳太郎		① 内藤 恭三 ② 新井 哲也 ③ 高橋 まり子
5 期	① 大竹 裕		③ 西田 宏子		

部 会	部 会 長 副 部 会 長	部 会 員			
企画部会	野村 知義⑧	野口 美津子② 西田 宏子⑨	梅沢 隆⑪ 柳川 薫子⑪	平田 渥美⑫ 丸山 保夫⑦(協)	山口 明子⑦(協) 可知 隆志⑧(協)
H P 部会	石賀 幹春⑨ 斎藤 正精⑥(副)	吉澤 孝二④ 佐藤 紀子⑥	伊藤 早苗⑧ 岡部 正實⑩	福岡 哲郎⑩ 池畑 博実⑩(協)	阿部 令子⑩(協) 橋本 順子⑪(協)
地域連携部会	森下 和彦⑪ 太田 則義⑦(副) 今泉 昌代⑩(副)	呉 東富⑤ 及川 廣子⑥	大沼 礼子⑩ 進藤 君枝⑪	岩田 孝子⑪ 山岸 洋子⑫	吉田 由紀子②(協)
会報部会	古橋 義弘① 瀬能 正実⑩(副)	榎本 和夫⑦ 太田 則義⑦	境 静子⑩ 佐藤 芳雄⑪	鈴木 興雄⑪ 中満 美紀⑪	岩出 好枝⑫
総務部会	國久 昇⑪ 石川 啓子⑧(副) 秋元 宏⑧(副)	丸山 幸秀⑩ 太田 純子⑫	河野 洋子⑫ 岩佐 徳太郎⑨(協)		

・部会長・副部会長の(副)は副部会長の(協)は協力部員です

地 域 C C ク ラ ブ (運 営 委 員)			
芝CCクラブ	大塚 堅一⑪	明虹会(港南・芝浦・台場地域)	恩地 亨輔⑩
高輪地区CCクラブ	大沼 礼子⑩	3Aクラブ(赤坂・青山・麻布地域)	川村 潔⑨

運営委員会の●数字はグループ、それ以外の欄の○数字は期です

地区CCクラブ代表

地 域 C C ク ラ ブ (代 表)			
芝CCクラブ	新井 隆治③	明虹会(港南・芝浦・台場地域)	斎藤 正精⑥
高輪地区CCクラブ	太田 則義⑦	3Aクラブ(赤坂・青山・麻布地域)	及川 廣子⑥

編集後記

令和元年第1号のCC通信第41号は、新年度の挨拶、12期生の修了感想文を掲載しました。如何でしたでしょうか。

感想文の寄稿が年々減少しているように思います。新会員の皆さまには多方面でご活躍くださいますよう期待しています。

今年度からCCクラブ代表が交代しましたので挨拶文を掲載しました。また、今後の誌面ではCCクラブホームページと連携し、皆さまの活動を紹介していきたいと思ひます。

CC通信について皆さまのご意見をお寄せください。(11期 佐藤 芳男)



チャレンジコミュニティ通信 vol.41 2019年7月12日発行

発行者 チャレンジコミュニティ・クラブ

事務局 明治学院大学 総合企画室社会連携課

(株式会社明治学院サービス)

〒108-0071 東京都港区白金台1-2-37

Tel.03-5421-1555 Fax.03-5421-1556

Email ccclub@meijigakuin-s.co.jp

http://www.minato-ccc.jp

会報部会

部 会 長 古橋 義弘(1期)

副部会長 瀬能 正実(10期)

部 員 太田 則義(7期)

部 員 榎本 和夫(7期)

部 員 境 静子(10期)

部 員 佐藤 芳男(11期)

部 員 中満 美紀(11期)

部 員 鈴木 興雄(11期)

部 員 岩出 好枝(12期)